

村山市などが開発に取り組んできた着地型観光商品の居合道体験プログラムが完成し、12月1日から受け入れを始める。「居合道発祥の地」という他にはない地域資源を生かし、外国人を含めた観光誘客を図る。受け入れ開始を前に市内で開かれた市民向けの体験会に記者も参加し、魅力などを探ってみた。

24日の体験会には市内外から6人が参加。居合の始祖とされる林崎甚助重信を祭った熊野居合両神社（林崎居合神社）に参拝した後、神社脇の村山居合振武館で約1時間半、刀の抜き方や振り方などの基本動作、型の一つ「初発刀」の習得に取り組んだほか、真剣で畳筒の試し切りにも挑戦した。

参加者には体験用の道着と刀が用意された。道着は帯の部分も簡易化するなど初心者でも着用しやすいような工夫が施されている。刀も模擬刀ではあるものの重さや握りは真剣と同様といい、手に持ったり帯刀したりすると、武士の気分を味わうことができ

金曜トピック

村山市の居合道プログラム



体験会で刀の振り方など居合道の基本動作に取り組む参加者＝24日、村山市・村山居合振武館

メモ 居合道体験プログラムは①演武の見学(40分、80人まで)②5〜15人のグループを対象とした体験(90分、1人8千円)③個人体験(2時間、2人まで3万円、3人以上は1人につき1万1千円追加)の3コースがある。追加オプションの試し切りは畳筒1本3500円(事前予約で3千円)。問い合わせは村山市観光物産協会0237(53)1351。

手に刀、背筋がピンと

体験会参加 深い精神性が魅力

る。

振武館に一步足を踏み入れると、神聖な雰囲気によって緊張感を覚えた。指導するのは林崎居合道伝承会(矢口良治会長)の高段者。「刀を抜くのは最終手段」「気迫で敵を上回ろうとする精神が重要」といった居合道の本質に関する説明を受け、一層背筋が伸びた。

「初発刀」は、床に正座した状態から刀を一気に抜いた

後、上段から切り下ろす。比較的覚えやすい技で、参加者は自分と正対した敵をイメージし、刀を振った。新庄市から参加した会社員加藤同さん(51)は「刀を持ったのは初めて。非現実的な感じもするし、楽しいとも思える」と感想を語った。

居合道を気軽に体験できる一方、その深い精神性にも触れ、心を磨くきっかけになる可能性もあると感じた。日本ならではの侍文化、武士道の本質的な部分を重要視している点をアピールしていけば「居合道の聖地」に加え、同様の観光プランとの差別化がさらに図れるはずだ。ブームに乗った一過性に終わるのではなく、定着を期待したい。

貴重で、見た目にも派手。会員制交流サイト(SNS)で自慢したくなるような「映える」体験だが、阿部さんは「剣術の本質である礼儀作法を大切にしてほしい」と強調した。プログラムは未経験者でも

(村山支社・手塚秀雄)